

音声訳を考える

「ママ」の「ルビ」を考える

前回の「ママ」印の話は意味が分からないという声がありました。実際に経験がある方はあまりないのかもしれませんが、昔の本は、活字を拾いながらの作業であった為、ときどき似たような活字が使われたりするケースがよくあります。また、有名な作家でもこんな間違いをすることといった意味で、引用文などで原文の活字のよこに「ママ」とルビが振られていることがあります。

この「ママ」のルビをどう処理するのかということをお前回取り上げました。

たとえば

・・・曖昧^{ママ}模糊として・・・

といったケースの場合で、「昧」という字の単純誤植と思われるケースです。音にすれば「昧」も「昧」もどちらも「マイ」と読めるのでそのまま読んでも「・・・あいまいもこととして・・・」となり意味もちゃんと通じます。しかし、たとえばルビがあるからと、「・・・あいまい、まいにま^{ママ}のルビ、あいまいもこととして・・・」などと読むと、読者はなんのことか分かりません。このような場合、「ママ」のルビは普通は無視してよみます。

また、

・・・曖昧^{ママ}模糊として・・・

昧のつくりが「未」ではなく「末」の活字もあり、もし、作りが「未」だと「バツ」と発音するので、そのまま読むと、「・・・あいばつもこととして・・・」となりますが、それでは意味が通じないので、活字の間違いを問題にしていないときは「アイバツ」ではなく「あいまい」と単純誤植の扱いでよむのが普通でしょう。ママのルビを無視して読むケースはあくまでも「文章自体が書き方を問題にしていないとき」の話です。

しかし、文章が書き方、表記を問題にしているときは別です。この『ろくおん通信』の記事を音声訳するとしたら、読み方は変わってきます。つまり、この内容は書き方を問題にしていますので、ちゃんと読者にそのことが分かるように読まなくてはならないからです。

さあ、読み方は勉強会などで研究してください。

第6回

校正のチェックポイント (最終回)

これまで五回にわたって、校正する時の注意点を思いつくままに並べて来ました。個々の例を上げて行っても、すべての本のすべての問題が上げられた例のどれかに当てはまるわけではなく、結局は自分が直面した問題点一つ一つを自分で解決して行かなければなりません。そのために読み手も校正者も基本的な考え方だけはきちんと理解していなければなりません。

録音図書製作にあたって、まず第一に守られなければならない基本は、「原本を正しく音に変える」ということです。これは、普通の文章なら「原文通りに読む」ということです。

本屋の店頭に並んでいるたくさんの本は、勿論、目で読むためのものです。なるべく多くの人々の目を引き、たくさんの人に買ってもらうための工夫が色々こらされています。それらの印刷物には印刷物としての約束事があり、又、制約もあります。一方、音声で情報を伝える時にはそれなりの約束事も制約もあります。活字の約束事と、音声の約束事は一致するものではありません。(例えば大きい活字で書かれた見出しを大きい声で読めばいいという訳ではありません)従って「原本を正しく音に変える」というのは「活字で提供された情報を正しく音に変える」と言い変えることが出来ます。

もちろん、原文通りに読めば正しく伝わる時には、原文通りに読むことが大原則です。しかし、原本には図、表をはじめとしてそのまま読めないものもたくさんあります。又、文章でもカッコがあったり同音異義語があったり音にかえると意味がわからなくなるものは、たくさんあります。これらのものは音声訳者の判断で何らかの工夫をして読むこととなります。

「原本通りに読まれているか」「原本の内容を正しく伝えているか」をチェックするのが校正です。誤読がないかチェックすることも大切ですが、それだけでなく図も表もその他すべてを含めて原本の内容が正しく読まれているかを確認することが大切です。

原本通りに読まれているかを確認するには原本と対照することが必要ですが、これだけでは音だけでわかるかどうかのチェックはなかなかできません。校正する時には原本をはなれて本当に利用者の立場で聞いてみる必要があります。

良い録音図書を製作するためには音声訳者も校正者もテープで読書する経験をもっともっと積み重ねることが必要だと思います。おわり

(第3回)

表が読めた！——ネットの効用

小原 二三夫(盲人情報文化センター点字製作)

ホームページ <http://www.5c.biglobe.ne.jp/Obara/>

私はよくインターネットを利用していますが、実際に音声や点字で読めるのは文字の部分だけです。

文字中心のページであっても、その中にある表はしばしば読めませんし、グラフや図、写真などは、(キャプションがあればその部分は読めますが)まったく見ることはできません。いちおう文章によってそのページの全体的な意味は理解できても、正確な情報あるいはこれは是非知りたいと思っている事柄が、表や図から読み取らなければならず、どうしても分からないことがあります。

またページ全体が PDF(portable document format)形式になっている場合には、私たちにとっては、中身は〈空っぽ〉ということになります。PDFはAcrobat Readerで再現できて、ホームページを製作するほうにも、それを見るほうにも便利なようですが、私たちには大きなバリアです。

政府の公開している官報など一部の文書、民間の研究機関の報告書のかなりの部分はPDFになっています。その中には内容のとて

も充実していると思われるものがあったりして、何回も残念な思いをしたことがあります。

さて、2週間ほど前、私のホームページを見たある学生からメールがありました。その方は今コンピュータの勉強をしていて、「視覚障害者のパソコン利用の実態」というテーマで卒論を書きたいとのことで、そのためにメールでの質問に答えてほしいとのことでした。

その質問の中には、インターネットやホームページについてのものもあり、私は上に述べたようなことも含め簡単に答えました。そして、かなりずうずうしいとは思いながらも(実際の例を示すことで少しは参考になるかもしれないという気持ちもありました)、その時読めたらいいなあと思っていた表のあるページのURLを書いて、もしその気があるのであれば、その表をテキスト化してみていただけませんか、とメールしました。

その方は快く引き受けてくださり、次に示すようなテキストデータを送ってくださいました。

「世界の原発上位10カ国」

アメリカ	運転中の出力	10064.0	運転中	103	建設中	0	計画中	0
フランス	運転中の出力	5988.8	運転中	55	建設中	4	計画中	0
日本	運転中の出力	4508.2	運転中	52	建設中	5	計画中	2
ドイツ	運転中の出力	2220.9	運転中	19	建設中	0	計画中	0
ロシア	運転中の出力	2155.8	運転中	29	建設中	4	計画中	8
イギリス	運転中の出力	1417.3	運転中	35	建設中	0	計画中	0
韓国	運転中の出力	1371.6	運転中	16	建設中	4	計画中	0
ウクライナ	運転中の出力	1281.8	運転中	14	建設中	5	計画中	0
カナダ	運転中の出力	1061.5	運転中	14	建設中	0	計画中	0
スウェーデン	運転中の出力	982.2	運転中	11	建設中	0	計画中	0

1999年12月末現在・日本電子力産業会議まとめ。新型転換炉などを含む。

単位は出力が万キロワット

(念のため、この表が載っていたページの URL を書いておきます。

<http://www.mainichi.co.jp/eye/feature/details/science/Physics/200006/15-2.html>)

どうですか。とてもきれいな表になっているでしょう。音声でも点字でもとても分かりやすいです。こういうのを「望外の喜び」と言うのでしょうか、とてもうれしかったです。

(ただ、音声や点字では、全体を一度に見ることはできず、初めから順番に読んでいくことになります。ですから、表を理解するのに直接必要な情報——上の例では「単位は出力が万キロワット」の部分——は、表の初めに持ってきたほうが表を理解しやすくなります。)

その方は引き続き表のテキスト化をしてくださるとのことで、とても心強く思っています。テキスト化するのにもっと難しい表もありますし、またグラフや図もあります。そのようなものも試行錯誤しながらなんとかテキスト化できるようにしたいと思っています。また今のところ1人です、負担も大きくなるかもしれません。興味のある方はぜひ私にメールで連絡ください。

(<mailto:of-4889@muf.biglobe.ne.jp>)

インターネットをある程度使えるようになって、それまでの点訳物を中心とした私の情報環境は大きく広がりましたが、このような、表などのテキスト化という支えによって、一つバリアが無くなり、私の情報環境はさらに広がるような気がします。

(なお、このような活動には著作権のことが関係してきますが、その事については別の機会に書きたいと思います。)

つづく
※この原稿はホームページからそのまま転載しています。

きれいに録音するには

自分の録音した音がきれいに入っているかどうかは、自分のものだけ聞いていては分かりにくいものです。一番よく分かるのは、テープ雑誌などで集団で製作するようなもので、他人の録音したものと自分が録音したものを聞き比べるとよく分かります。”なぜ自分のは音がこもった感じなのだろうか”とか、“なぜ自分の録音は「シャー」という音が目立つのだろうか” “なぜ、自分の録音は声が不明瞭なのか”といったことに気づかされることがあります。家で聞くとまわりの反響音や環境音も一緒に聞いている為、実際に録音された音がどんなものかわかりにくいのです。他人の録音したものと比較して聞いたときにその差がはっきりしてくるわけです。自分の録音した音がちゃんと入っているか、他の人と比べてどうか、聞き分けられるよう耳も鍛えなくてはなりません。録音した音はヘッドホンなどでちゃんと聞くことが正確に録音状態を知ることになります。スピーカーだけだと気づかない点もいろいろでてきます。

さて、先にあげた、“音がこもって聞こえる”という原因ですが、まずはヘッドが汚れているかもしれません。あるいは長年使用してヘッドがすり減っているかもしれません。マイクの使い方が不適切なのかもしれません。マイクの角度が口元からはずれるほど音質は鈍くなります。

「シャー」という音が他の人のより大きい場合は、録音レベルに問題があるのかもしれませんが。録音レベルが低いと、テープに入るヒスノイズも、再生した時に声と共にヒスノイズも大きくなる為です。録音レベルは小さすぎても、大きすぎてもいろいろ問題を起こしますので注意しましょう。(録音レベルは、再生時にピークレベルメーターが「-4」に常時届いている程度です。録音時と再生時とではメーターの振れ具合は違ってきます。再生時ではテープの種類によって多少異なりますが、少し下がります。)また、ドルビーがかかったものを再生時にドルビーをOFFにして再生すると「シャー」という雑音が大きくなります。普通はドルビーはOFFで録音しましょう。

音声不明瞭なのは発声にも問題があるかもしれません。いまでは聞き手がスピードを調整して聞けるテープレコーダーも増えています。デイジー図書では3倍のスピードでも聞くことができます。早く読もうとして言葉が滑ってしまうより、きちんと読むようにしましょう。音声訳者は普段から滑舌の練習を怠らないようにしましょう。よく下読みしたねのとぶっつけ本番で読んでいるのではと思われるものもあります。下読みをちゃんとしておくことは大切なことです。

つづく

利用者から製作依頼を受けている原本

『福祉国家の優勢思想』二文字理明、椎木章編 <医学>
『面白くなくちゃ人生じゃない』黒木安馬著 <人生訓>
『出過ぎる杭は打ちにくい』黒木安馬著 <人生訓>
『行政書士合格レベル問題』DAI-X総合研究所 <
『エアラインハンドブックQ&A100』全日空広報室 <運輸>

以上のリストは、読者から音声訳の依頼を受けている本です。引き受けて頂ける方がありましたらご連絡ください。初めてのグループの方は何か5分でも結構ですから録音したものをご持参下さい。録音についてのチェックと共に、必要があれば録音技術のアドバイスをさせていただきます。

第6回録音図書製作グループ音訳研究会報告

11月8日(木)に行われた、第6回の研究会には19館、46名の参加がありました。今回は「パソコン関係用語の読み方」について、中本和代氏(近畿視情協録音図書製作委員会パソコンチームリーダー)を講師に招いて勉強しました。その後参加者から、グループが現在抱えている問題や課題などについて出してもらいました。

グループからでた問題や課題

- 目次などマニュアルに載っていないような処理のあつかい
- テイジー編集者の養成
- グループメンバーの老齢化の問題
- 校正基準の見直し問題
- 校正者の養成(校正者不足)
- 音訳者はいるが製作するものがない。何を製作してよい分からない
- 音訳者不足 利用者の依頼に答えられない
- グループでどんな勉強の仕方をしてよいか分からない
- 音訳完成までの時間の短縮

これらの課題はほとんどのグループで共通する課題といえそうです。

次回日程とテーマなどの確認

2002年 2月頃

テーマ: マニュアルに載っていない処理について(案)

デジ編集を始める (その5)

前号につき、デジ編集を行うパソコンの初期設定について紹介する。

〔2.6 パソコンの初期設定〕のつづき

(6) デジ専用ドライブの準備

共同でパソコンを使用する場合には、編集中のものおよびデジ校正・修正が完了するまで一時保管するものも含めるとドライブに保存されるホルダーやファイルはかなりの数になる。

一方、パソコンを購入したときのドライブ構成は、フロッピーディスクが (A)、ハードディスクが (C)、以降MOドライブ、DVD-RAM、CD-RW ドライブ等の構成に応じて順番にアルファベットのドライブ名が付いている。

(C) ドライブには OS (Windows98 等) およびデジ関連のほか、各種ソフトが収容されており、かなりの数のフォルダーやファイルが保存されている。作業性を考えるとデジ編集データは別に (D) ディスクなどを準備してそこに保存するのがよい。

充分大きな容量の (C) ドライブであれば、パーティションを設定して、見かけ上複数のドライブに分割することができる。OS やソフト関連のデータが存在する状態でも PartitionMagic (PowerQuest 社製、¥15,800) というソフトを用いれば簡単に分割することができる。

ヘッドクラッシュ等ハードディスクの機械的なトラブルの危険性を分散するという観点からはオプションで予め別のハードディスク (D) をパソコンに内蔵していれば申し分ないが、外付けのハードディスクを後で追加するのもよい。外付けハードディスクとしては大容量60GB (例: SCASI&USB HD、Logitec 社製) をきわめて安価 (約¥30,000) に入手することができる。

例として筆者が使っているパソコンのドライブ構成を以下に示す。マイコンピュータの構成を見ると、(A) は3.5インチFD。また、(C) 19.9GBと (D) 11.8GB はもともと32GB程度あったハードディスクを PartitionMagic で二つのドライブに分割したもの。さらにデータ領域を確保するために

外付けハードディスク (E) 57.2GB (公称 60GB) を増設した。

(F) はMO、
(G)はDVD、
(H) と (I)
はCDROM と
CD-Rである。

名前	種類	合計サイズ	空き領域
3.5 インチ FD (A)	3.5 インチ フロッピー...		
(C)	ローカル ディスク	19.9GB	17.3GB
(D)	ローカル ディスク	11.8GB	727MB
Local disk (E)	ローカル ディスク	57.2GB	6.30GB
リムーバブル ディスク (F)	リムーバブル ディスク		
リムーバブル ディスク (G)	リムーバブル ディスク		
(H)	CD-ROM		
(I)	CD-ROM		
リムーバブル ディスク (J)	リムーバブル ディスク		
プリンタ	システム フォルダ		
コントロール パネル	システム フォルダ		
Web フォルダ	システム フォルダ		
ダイヤルアップ ネットワーク	システム フォルダ		
タスク	システム フォルダ		

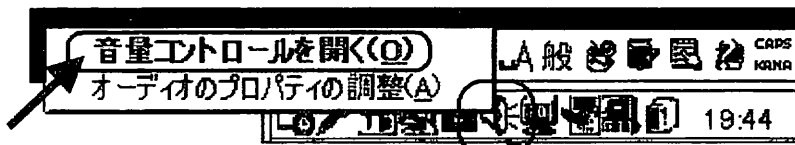
ドライブ構成の例 (筆者のパソコンの場合)

(7) 再生音量の調節

通常、パソコンで再生される音の大きさは、ディスプレイ右下 (タスクバー) にある〔スピーカ〕マークをクリックして現れる〔音量〕つまみ (A) を上下にスライドして行う。

しかし、カセットテープの音量などが異常に小さいときなどは、〔音量〕つまみ (A) だけでは十分な音量を得ることが出来ない場合もある。このようなときには、〔音量〕つまみ (A) に加えて、さらにもう一段階の調節を行うことができる。右下の〔スピーカ〕マークを右クリックして現れるポップアップメニューから

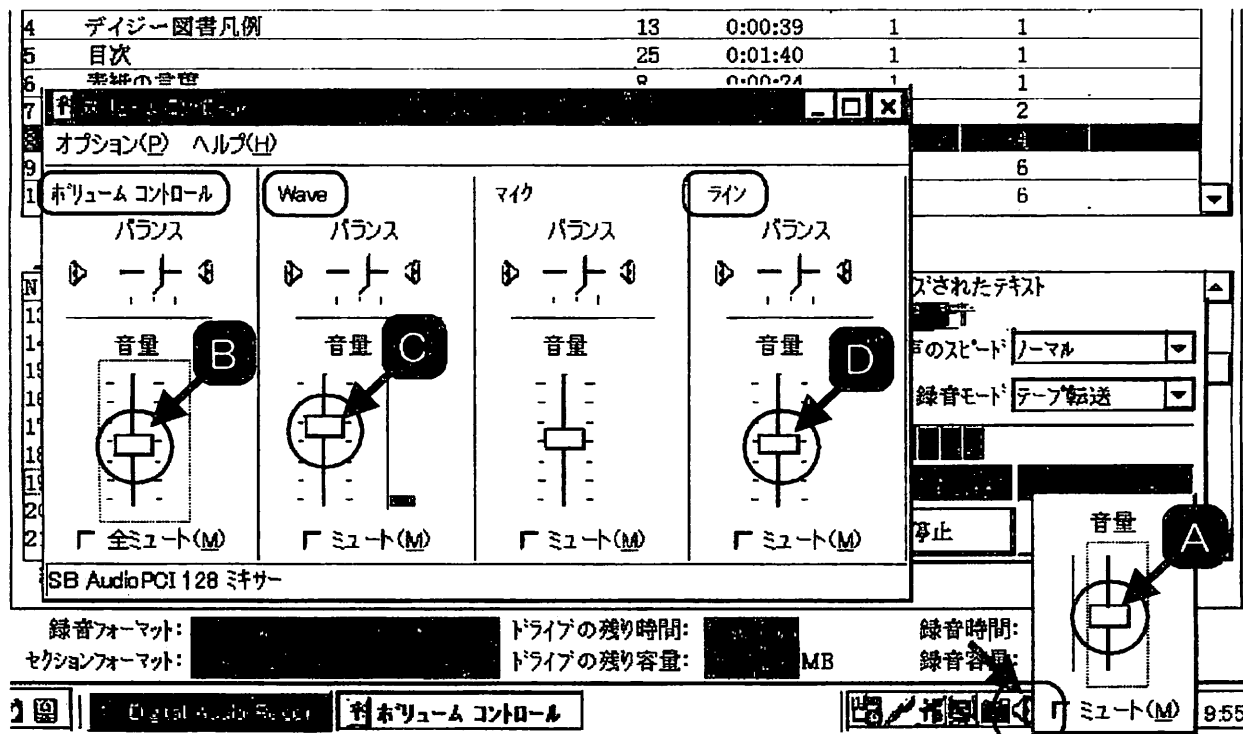
〔音量コントロールを開く〕をクリックし、〔ボリュームコントロール〕画面を開いて調節する。Sigtuna 編集集中の再生音であれば〔Wave〕の音量つまみ (C)



(スピーカマーク)

で、また、カセットレコーダ等の再生音であれば〔ライン〕の音量つまみ (D) で前段の音量を調節することができる。なお、〔音量〕つまみ (A) と〔ボリュームコントロール〕の音量つまみ (B) は連動して動く同一のつまみである。

以上のように、再生音量はスライドつまみで2段階に調節することができる。さらに、ボリュームつまみのある外付けマイクロスピーカを用いている場合にはさらにもう一段階音量を調節することができる。



ボリュームコントロール画面

録音 (テープ転送またはライブ録音) 時の音量調節は〔ライン〕または〔マイク〕の音量つまみによる調節のみとなり、ミキサー等の付加が必要となるが説明は省略する。

次回はデジ編集で何ができるのか、デジ編集のいろいろについて紹介する。

(つづく)

(テープライブラリーにしのみや 鳥生次郎)